

春日井市西尾町シデコブシの再生

シデコブシ (*Magnolia tomentosa*) はモクレン科の落葉性小高木で日本の固有種であり、東海3県(愛知県、岐阜県、三重県)の丘陵地帯にある湿地に生き残った東海地方固有の植物です。

しかしながら現在では、人為攪乱により、多くのシデコブシ生育地で分断・孤立化が進行しその自生地での存続が危惧されていることから、環境省レッドリスト2019に準絶滅危惧種としていされています。



1908 坂下村廻間
「尾張地域における森林荒廃と普及の歴史」

春日井市のシデコブシ

愛知県春日井市の東部丘陵地帯は多年にわたり治山事業により森林復元した歴史をもっています。湧水による湿地も多く各所に点在し、その周辺にシデコブシは普通にみられました。

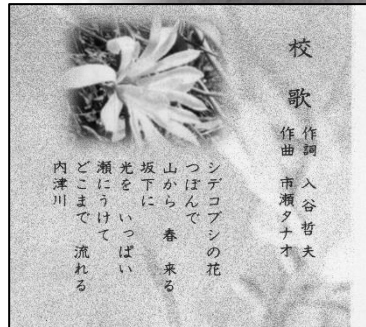
その丘陵から連続し坂下小学校まで分布していました。

1973年坂下小創立百年記念誌に、1954年(昭和39年)新しい校歌が出来「シデコブシの花」が歌詞に歌われたことが記載されています。

そして、それは現在まで子供達に歌い継がれています。

シデコブシはなぜ生き残ったか

東海地方の丘陵地は、砂や石ころの地層(砂礫層)がむき出しの所が多く極端に栄養分がありません。またそこにできる栄養分の少ない湿地を低湿地といっています。こうした植物が育ちにくい環境で耐えられる事ができたのが、シデコブシやハンノキ、フモトミズナラ(モンゴリナラ)などに代表される東海固有種です。



1973 坂下小
創立百年記念誌



元森林公園展示館